



SFファンタジア6
・マンガ編
松本零士編
学習研究社 (4/30刊・
¥980)

SFファンタジアは、学研から、これまで第一期五冊が刊行されている。これらは、主に小説のテーマ別分類、解説が中心だった。本編では、戦前から現代に至るSFマンガの系譜、少女マンガ、アメリカン・コミクスなどが述べられている。小説の分野では、戦後六〇年代まで、本格的なオリジナル作品を生み出しえなかったわが国だが、マンガとSF的発想とは、もともと不可分のものだった。

戦前の『火星探険』（大城のぼる）から、『ふしぎな国のプッチャー』（横井福次郎）、そして、手塚治虫の初期作へ連なる、マンガの影響を受けた読者は、実際数多い。現在活躍中のSF作家も、発想の原点に、こういったマンガを据えているようだ。

昭和三十八年、初めてテレビアニメ『鉄腕アトム』が登場すると、マンガのメディアとしての範囲はさらに広がる。以降、マンガを知らずに少年時代を過ごした世代は、もはやあるまい。SFの、マンガに占める割合は決して大きくはない。だが、無視できない分野であることは間違いないだろう。ともかくも、吾輩ひでおや山田ミネコまでがコンバクトにまとめられており、楽しい一冊である。（後）